

地域生活支援拠点等の機能・運営状況の評価に係る総括表

◆ 入間市の地域生活支援拠点等の目指している姿
障害者等の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、様々な支援を切れ目なく提供できる仕組みを構築するため、地域の支援者が機能を分担して面的な支援を行う体制等の整備を図る。

I. 地域生活支援拠点等の機能に関する評価指標	
(a) 【相談機能】 把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時を含む相談体制の確保 【要支援者の事前把握及び体制】 緊急対応など支援が必要となる障害者・障害児の事前把握・登録・関係機関との情報共有	【相談機能】 【要支援者の事前把握】 の整備や運用に関する目標
	①障害児の登録を増やすため、こども関連の会議や障害児の団体にむけて周知をおこなう。 ②継続してSNSでの周知をおこなう。
	コアメンバー（委託相談支援事業所、基幹相談支援センター、市町村担当者）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）
	十分できている
	◇現状・課題に係る評価（自由記述）
	障害児団体の会議に参加し、「緊急時のための事前登録」について周知を行った。 QRコードを活用したオンラインでの登録を新規開設し、年末年始等にSNSおよび広報いるまにて周知を行った。 これまでの登録者数：69名（うち者58名、児11名）前年から13名増（うち者9名、児4名）
	◇今後の対応等（自由記述）
	①あらためて相談支援専門員や障害者団体にむけて周知をおこなう。 ②継続してSNSでの周知をおこなう。 ③新規手帳交付時に窓口にて案内をする。
(b) 【緊急時の受け入れ・対応】 把握した緊急対応など支援が必要な障害者・障害児からの緊急時の受け入れ先の確保	【緊急時の受け入れ・対応】 の整備や運用に関する目標
	「緊急時のための事前登録」をされている方の簡易データ（個人情報を除いたもの。入所の際に必要な事項のみ。）を受け入れの協定を締結している施設に対し、定期的に情報提供をおこない、緊急時の対応がスムーズになるようにする。
	コアメンバー（委託相談支援事業所、基幹相談支援センター、市町村担当者）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）
	十分できている
	◇現状・課題に係る評価（自由記述）
	協定を締結している施設へ事前登録されている方の簡易データの情報提供をおこない、緊急時の対応の円滑化を図った。今後も定期的に情報提供を行っていく。
	◇今後の対応等（自由記述）
	緊急対応の流れについて、「入間市地域生活支援拠点事業について」に基づいて、あらためて会議等にて相談支援専門員に周知をし、緊急時のスムーズな支援に繋げていく。

(c) 【体験の機会・場の確保】 把握した地域生活への移行や継続のニーズを踏まえた地域生活の体験宿泊等の実施	【体験の機会・場】の整備や運用に関する目標
	「支給決定のスピード化」（体験利用期間も支給決定を行う仕組み）について通所サービス事業所に利用を進めてきたが、利用者が増えない実情があったため、実際に活用しているケースを提示しながら、あらためて事業所に説明を行うことで、「支給決定のスピード化」の利用者を増やす。
	コアメンバー（委託相談支援事業所、基幹相談支援センター、市町村担当者）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）
	一定程度できている
	◇現状・課題に係る評価（自由記述）
	通所サービス事業所を訪問し、「支給決定のスピード化」について説明をおこなったが、利用者は0人であった。令和4年度より3年間実施してきたが、利用ニーズがないと判断をした。令和7年度以降は体験宿泊の機会を充実させていくことを目標とし、その準備として市内のグループホーム事業者対して運営に関するアンケート調査を行った。
	◇今後の対応等（自由記述）
	市内のグループホーム事業者が情報交換を行う場を設け、体験宿泊等が円滑にすすむように働きかけを行っていく。

(d) 【専門的人材の養成】 専門性の確保に向けた取組の実施	【専門的人材の確保・養成】の整備や運用に関する目標
	相談の質の向上を目的とした相談アセスメント研修の継続。令和7年度まで同内容で実施する。支援の質を向上を目的に既存の事例検討会等の活用を促す。
	コアメンバー（委託相談支援事業所、基幹相談支援センター、市町村担当者）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）
	十分できている
	◇現状・課題に係る評価（自由記述）
	昨年度にひき続き、支援者を対象に相談アセスメント研修を10月に実施。参加者は22名（前年から7名増）。1日の研修で、午前中はアセスメントについて、午後はケース検討会についての研修を実施。昨年度のアンケートよりケース検討の内容を深めたいとの意見が多かったため、今年度はケース検討の内容を深め実施をした。事前に参加者各自が準備したケースを深めることで、専門的なアセスメント手法について習得することができた。相談支援員等に対し、他課で実施している事例検討会への参加を促したり、相談支援事業所連絡会にて事例検討会を数回実施した。
(e) 【地域の体制づくり】 把握した障害者・障害児の地域生活のニーズを踏まえた地域の体制づくりの実施	【地域の体制づくり】の整備や運用に関する目標
	①地域生活支援部会にて相談支援員からの他分野連携ケースの報告を継続し、地域課題を抽出し地域資源を創出する。 ②対応困難ケースの支援には関係各課との連携が必要となるため、関係各課の動きを知る機会をつくる。
	コアメンバー（委託相談支援事業所、基幹相談支援センター、市町村担当者）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）
	十分できている
	◇現状・課題に係る評価（自由記述）
	①今期の地域生活支援部会では、相談支援員のケース報告からではなく、各委員の意見から地域課題を抽出することになり、「相談窓口の明確化」「切れ目ない支援」をテーマに今後協議を進めていくことになった。 ②相談支援事業所連絡会にて、こども支援課や高齢者支援課より支援体制や制度説明を行ってもらい、相談支援専門員と関係各課との情報交換を行う機会をもうけた。 ③障害者差別解消を目的に、障害のある方への理解を深めるために、DET（障害平等）研修を実施し、23名が参加。（参加機関：商工会、障害福祉審議会委員、自立支援協議会、相談支援事業所）
	◇今後の対応等（自由記述）
	相談支援事業所連絡会・医療ケア児会議・教育と福祉の連携に係る意見交換会・精神保健福祉医療地域連携会議などの多分野の支援者が集まる会議を活用し、自立支援協議会や各部会で明確になった課題をもとに地域の体制づくりをおこなっていく。

Ⅱ．地域生活支援拠点等の運営状況に関する評価指標	
(f) 【拠点等の運営状況】 地域住民に対する周知・広報ならびに関係機関との連携体制の構築	【拠点等の運営状況】の整備や運用に関する目標
	市公式ホームページや市公式SNSを活用し、拠点等事業について周知を行う。支援者が集まる会議にて、拠点事業の周知を行い、協力を依頼する。
	コアメンバー（委託相談支援事業所、基幹相談支援センター、市町村担当者）による自己評価
	◇充足度（十分できている/一定程度できている/全くできていない）
	十分できている
	◇現状・課題に係る評価（自由記述）
	市公式ホームページや市公式SNSを活用し、事業の周知を行った。就労支援施設を訪問しながら個別に周知を行ったり、相談支援事業所連絡会や医療的ケア児等コーディネーター連携会議などの会議の場で事業周知に努めた。
	◇今後の対応等（自由記述）
	引き続き、市公式ホームページや市公式SNSを活用し、拠点等事業について周知を行う。支援者が集まる会議にて、拠点事業の周知を行い、協力を依頼する。